

# 令和7年度「熊本の学び」研究指定校事業 事業実績報告書

## 1 研究の内容

授業力向上 (  ) ・道徳教育 (  ) ・キャリア教育 (  ) ・特別活動 (  )  
カリキュラム・マネジメント (  ) ・その他 (  ) (内容：E S D)

## 2 学校の概要

<児童(又は生徒)数・学級数(令和7年(2025年)1月現在)>(単位:人)

プロジェクト校(研究指定校)	児童生徒数	教員数	校長名	研究主任名
菊池市立菊池南中学校	484	42	久保 敦嗣	上野 元気

## 3 研究主題

「できた」「わかった」を通して主体的に学ぶ生徒の育成  
～E S Dの視点を踏まえた授業づくりと支持的風土づくりの適切な評価を通して～

## 4 研究主題設定の理由

現行の学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」が重視され、子供たちに育成すべき資質・能力とは何かを社会と共有し、連携することが求められている。また、令和5年6月に閣議決定された、第4期教育振興基本計画では、2つのコンセプトとして、「持続可能な社会の創り手の育成」と、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が挙げられている。子供たちが社会との繋がりを実感しながら、持続可能な社会の創り手として自ら学ぶ必要性がこれまで以上に求められている。

本校は平成31年度から国立教育政策研究所教育課程研究(E S D)指定を受け、「持続可能な社会づくりを目指し行動する生徒の育成」を研究テーマにE S Dの視点に立った学習活動に取り組むとともに、教育課程や教育内容の見直しを進めてきた。令和5年度からは、本校の教育目標である「『生きる力』を培い、未来を創造する生徒の育成 ～夢に向かって賢く・仲良く・健やかに～」のもと、これらのE S D教育の成果を基盤にしつつ、学力向上を目指し新たなテーマを設定した。

しかし、令和6年度12月の県学力調査・市学力調査によると、現2・3年ともに県平均・市平均をほぼ全ての教科で下回るとともに、同集団における定着率40%未満の生徒も増加傾向にあることから、基礎知識の定着や教科への関心・意欲等、学力面での課題が見られた。また、同時期に実施したi-c-h-e-c-kの結果からは、コミュニケーション能力の向上や対話的な学びの推進に関する項目で成果が見られた一方、「先生のささえ」、「いじめのサイン」などの項目から、安心できる学級づくりという点で課題があるということも分かった。

そこで、本年度も、E S Dの視点を「学ぶ意味」と関連付けながら、授業力向上と対話的な学びの素地となるなかまづくりを柱とした研究テーマを設定した。本研究を進めることで学校教育目標の具現化に寄与することを目指すとともに、全ての教育活動を通して、生徒が「学ぶ意味」を自覚しながら主体的に学び、持続可能な社会の創り手となることを目指している。

## 5 研究の具体的な取組内容

### (1) 三部会の視点

子供たちが「できた」「わかった」と実感することで主体的に学ぼうとする姿を目指し、研究組織としては「授業づくり部会」「なかまづくり部会」「SA（サステナブル・アセスメント）部会」の三部会を編成し、視点に沿った研究を進めていく。各部会の視点は以下のとおりである。

授業づくり部会	なかまづくり部会	SA部会
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対話的な学びを意識した授業展開の工夫</li> <li>・基礎基本の定着を図る工夫</li> <li>・学習規律の徹底</li> <li>・生徒の実態調査</li> <li>・各教科の評価の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GWTやSSTなど学級活動の充実</li> <li>・コミュニケーション能力の向上を目指す取組（南中わくわくタイム）の実施</li> <li>・道徳教育の充実</li> <li>・発達支持的生徒指導の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科におけるESDの視点を踏まえた評価</li> <li>・ESDの推進及び評価（未来創造タイム、行事、キャリアパスポート）</li> <li>・5者連携の教育活動（評価・査定）</li> </ul>

(2) 学校教育活動を通して重点的に育成を目指す資質・能力

持続可能な社会の創り手の育成を目指し、これまでの本校のESDの取組の成果を生かし、ESDの観点から「学校教育活動を通して重点的に育成を目指す資質・能力」を設定し、教育活動を進めていく。本校で定めた「学校教育活動を通して重点的に育成を目指す資質・能力」は以下のとおりである。

<ul style="list-style-type: none"> <li>A課題を見出す力</li> <li>B進んで参加する態度</li> <li>C批判的に考える力</li> <li>D多面的・多角的・総合的に考える力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Eコミュニケーションを行う力</li> <li>F他者と協力する力</li> <li>G未来像を予測して計画を立てる力</li> <li>Hつながりを尊重する態度</li> </ul>
--	---

6 目指す成果【検証方法】

(1) 授業づくりの視点から

菊池市・熊本県学力調査で定着率が40%未満の生徒を中心に、基礎・基本の定着において伸びが数値的に見られることを目指す。【各学力調査の分析】

(2) なかまづくりの視点から

安心できる学級・支持的風土づくりに関する質問項目で、肯定的な回答をする生徒の割合が数値的に伸びることを目指す。【i-checkの分析、本校独自の評価シートの定期的な実施及び分析】

(3) SA（サステナブル・アセスメント）の視点から

ESDの視点から、「学校教育活動を通して重点的に育成を目指す資質・能力」について、生徒の持続可能な社会の創り手としての自覚が高まっているか、生徒・教師・または地域等へのアセスメント方法を検討し、数値的な伸びを目指す。【本校独自の評価シートの定期的な実施及び分析】

7 研究実施の実際

時期（月）	実施内容
（3月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会リーダー研修</li> <li>各委員会の年間計画作成</li> </ul>
4月	研究テーマの決定、共通実践事項の確認

5月～2月 (全8回)	総合的な学習の時間（未来創造タイム）による各委員会の活動。 ・年度当初に各委員会でE S Dと関連させて計画した年間計画をもとに、本校で設定した重点的に目指す資質・能力の育成やS D G sの達成に寄与することを目指して活動する。 ・探究的で深い学びとなるように、課題の把握、計画及び実施、振り返り、次年度の計画というP D C Aを意識した活動を行う。
6月	研究授業（大研）
7月	S D G s ワークショップ（1・2年生対象）
9月	研究授業（大研）
10月	前期の振り返りと後期の取組の確認
11月	校内研修（外部講師招聘：避難所模擬体験）
12月	研究のまとめ、実践事例集作成
1月14日（水）	研究発表会 総合的な学習の時間（未来創造タイム）発表
2月	研究の振り返り、次年度の計画作成

## 8 市町村教育委員会の取組の実際

菊池南中学校は菊池市の研究指定校も兼ねており、研究の方向性に関する助言、授業研究会への参加、公開授業の学習構想案についての指導・助言等を行った。また、研究発表会運営に係る打合せを菊池南中学校と密に行い、運営面での支援も行った。

## 9 研究の成果【検証方法】

### (1) 授業づくりの視点から

授業づくり部会では、E S Dの視点を踏まえた単元デザインと、主体的な学びに向けた共通実践を進めた。

学習構想案には、8つの資質・能力をもとに、「生徒が意識する学びのステップ」【E S Dの視点】を示し、単元の内容と関連性が高いものを、各教科で育成を目指す資質・能力と関連させて設定し、生徒と教師の両方が意識することで、学力の向上・授業力の向上を図った。

また、主体的な学びに向け、「学びにおける自己選択の工夫」「考えを参照・共有するためのタブレットの活用」「授業における生徒の学習状況を見取る工夫・学習規律の徹底」の4つの取組を全職員で共通実践した。

その結果、以下に示す生徒への質問項目で、数値の上昇が見られた。

質問項目	初期値	事後	差
授業で「なぜ」「おそらく」「やってみよう」「なるほど」「わかった」「できた」等を感じることができましたか？	89.1%	92.8%	+3.7%
学習課題や学習の手段、形態、課題の難易度などについて、自ら選択して学ぶ機会がありましたか？	86.1%	88.2%	+2.1%
タブレットを活用して他者の考えを共有したり、参考にしたりして自分の考えを深めることができましたか？	87.3%	90.3%	+3.0%

【アンケート調査 初期値：令和7年5月、事後：令和7年11月】

## (2) なかまづくりの視点から

なかまづくり部会では、主体的・対話的な学習活動を進めていく基盤を築くために、「南中わくわくタイム」やグループワークトレーニング、ソーシャルスキルトレーニングを計画的に、そして全校集会で取り組む意義を生徒と確認し実施した。

また、朝の会での「先見の時間」、帰りの会での「1分間スピーチ」や「ボランティアサービスタイム」などの共通実践を行った。

その結果、特に話し合い時に自分の意見を積極的に発言する生徒が増えたと考えられる。

質問項目	初期値	事後	差
クラス全体やグループ、友だち同士で話し合いをするとき、自分の意見を積極的に発言していますか？	73.8%	80.1%	+6.3%
クラスの話し合いや友だちとの間で意見が合わなかったとき、みんなが納得できるように考えて提案していますか？	77.3%	81.0%	+3.7%

【アンケート調査 初期値：令和7年5月、事後：令和7年11月】

## (3) SA（サステナブル・アセスメント）の視点から

SA部会では、未来創造タイムにおける指導と評価の一体化を図り、キャリア・パスポートや学校行事における自己評価の工夫を行い、地域学校協働活動における評価の充実を図った。

質問項目	初期値	事後	差
単元や題材を通して先生が示したESDの8つの力を意識して学ぶことができましたか？	83.0%	86.4%	+3.4%
8つの力を意識して自分の学びを振り返ることができましたか？	85.6%	87.0%	+1.4%
8つの力を意識して学校行事などに取り組むことができましたか？	89.9%	90.0%	+0.1%

【アンケート調査 初期値：令和7年5月、事後：令和7年11月】

## (4) 全体を通じて

- ・ ESDの視点を踏まえた授業づくりを行っていくことで、生徒は学習の見通しを持って、粘り強く、自分の学習の進め方を振り返ったり、周りの人の意見を参考にしたりしながら主体的に学ぶ姿が見られ、授業改善が進んだ。
- ・ 地域学校協働活動を柱としたESDの取組は、特に「進んで参加する態度」「コミュニケーションを行う力」「他者と協力する態度」の向上に寄与した。

## 1 0 研究の課題と今後の展望

- ・ 各教科の授業、学校行事、特別活動、総合的な学習の時間等が教科等横断的かつ有機的に結びつく、ESDを軸とした学びや取組が持続可能なものになるように計画等を整理し、再構築することが必要である。
- ・ 様々な教育活動をESDの視点から振り返ることはできているが、評価方法や検証方法について、さらなる実態把握とアプローチを行いたい。

## 1 1 研究成果の普及

令和7年12月にユネスコスクール・キャンディデート校に指定された。本校の教育実践を県内から全国へ、そしてユネスコスクールのネットワークを通じて外国にも広げていきたい。